

図書館だより

武雄高校 図書指導部
令和6年8月1日発行
第6号

今回の図書館だよりは1年2組 陣内葵衣と井手穂香が作成しました。
一年間よろしくお願いします。

今回は、暑い夏を乗り切るための
❖おすすめの本 Select❖
です。(怪談はありません、ご安心を。)

●「青空エール」は注文中なのでもうしばらくお待ちください。

『青空エール』 著者【下川香苗】(集英社)



おすすめの理由

野球部を応援する吹奏楽部員に憧れ、吹奏楽の名門、白翔高校に入学したつばさが、約束を果たすために吹奏楽の練習を熱心に頑張っていく物語です。夏に読むのにぴったりな作品です。

『あん』 著者【ドリアン助川】(ポプラ社)



おすすめの理由

ある日、どら焼き店に、徳江という高齢の女性が働き口を求めに来る。徳江の作る「あん」は評判になり、店は繁盛していく。「生きる意味」とは何かを考えさせられる作品です。読書会にも人気の本です。

『夏の庭～The Friends～』 著者【湯本香樹実】(新潮社)



おすすめの理由

街はずれに暮らしている老人。その人が死ぬ瞬間を見るために僕たちは観察し始めた。夏休みになったが不思議なことに、老人は元気になっていく。いつしか少年たちは老人と交流を深めていく。失われるものと失われぬものに触れた少年たちの物語。この本も読書会では人気です。

『火垂るの墓』 著者【野坂昭如】(新潮社)



おすすめの理由

8月と聞いて皆さんが思い浮かべるのは何ですか。海、花火、入道雲。様々なものがありますね。しかし私は戦争のことを思い浮かべます。この本は戦争の中で生き、戦争の中で死んでいったある兄妹のお話です。



夏を元気に過ごすために



夏本番を感じさせる暑さとなってきました。
日差しが強く、暑さが増してくるので、熱中症対策が必要になってきます。本を読むことに集中しすぎて、水分補給がおろそかにならないように注意しましょう(水分>読書)。読書は心の水分にはなりますが、体の水分にはなりません。残念…。



新着図書案内



☆☆ 夏休みの図書館開館のお知らせ ☆☆

開館時間 8:05~16:35

8月8日~8月16日は閉館します。

詳しくは8月の開館&閉館カレンダーでお知らせします。



『海を破る者』 今村翔吾 著 (文藝春秋)

伊予・河野家は、一族の内紛により没落していた。かつての名門御家人が元寇を退ける立役者となるまでを熱く描く、歴史大河小説。



『旅のない』 上田岳弘 著 (講談社)

「作家さんなんですよ？」出張先の車中、取引先の男が聞いてきた。たしかに僕は、IT企業に勤める傍ら小説も書いている。学生時代に撮ったという未完の映画の話をはじめた男だが、次第に素性がわからなくなっていき…。川端康成文学賞受賞の表題作を含む、コロナ渦中の日々を映す4つのストーリー。



『問う方法・考える方法—「探究型の学習」のために』 (河野哲也)

『人生はゲームなのだろうか？<答えのなさそうな問題に答える哲学>』 (平尾昌宏)

『「人それぞれ」がさみしい—「やさしく・冷たい」人間関係を考える』 (石田光規)

『私、子ども欲しいかもしれない。—妊娠・出産・育児の“どうしよう”をとことん考えてみました。』 (犬山紙子)

『空が青いから白を選んだのです—奈良少年刑務所詩集』 (寮美千子)

『スタートアップとは何か—経済活性化への処方箋』 (加藤雅俊)

『罪を犯した人々を支える—刑事司法と福祉のはざままで』 (藤原正範)

『日本語と漢字—正書法はないことばの歴史』 (今野真二)

『雑考と日本人 植物・農・事前から見た日本文化』 (稲垣栄洋)

『我々の死者と未来の他者 戦後の日本人が失ったもの』 (大澤真幸)

『神聖ローマ帝国—「弱体なる大国の実像」』 (山本彦彦)

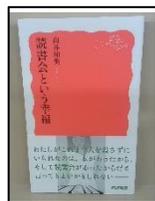
『精選女性随筆集 石井桃子 高峰秀子』 (石井桃子 高峰秀子)

『アトム的心脏』 (清武英利)

『ハピネス』 (嶽本野ばら)

『読書会という幸福』 向井和美 著 (岩波書店)

ありふれた日常の中で、読書という行為がどれほどの豊かな時間をあたえてくれるのか。三十年以上、全員が同じ作品を読んで語り合う会に途切れることなく参加してきた著者が、その「魂の交流の場」への想いを、味わい深い文章で綴る名エッセイ。読書会の作法やさまざまな形式の紹介、潜入ルポ、読書会記録や課題本のリストも。



『名探偵のままできて』 小西マサテル 著 (宝島社)

かつて小学校の校長だった切れ者の祖父は現在、幻視や記憶障害といった症状が現れるレビー小体型認知症を患い、介護を受けながら暮らしていた。しかし、孫娘の楓が身の回りで生じた謎について話して聞かせると、祖父に知性は生き生きと働きを取り戻す。

そんな祖父のもとへ相談を持ち込む楓だったが、やがて自らの人生にかかわる重大な事件が…。

古典作品が彩る探偵ミステリー。

